

加藤さんより、第九の練習方法について、アドバイスを頂いています。

## 『第九の練習について』

加藤 幹雄

練習方法は、個人により違いますから、一概には言えませんが、ゆっくりのテンポで練習して、まず口で歌えるようにすることです。もちろん、きちんと階名で歌うとかではなく、ラララでも鼻歌でもいいです。2楽章の飛ばし弓のところとか、4楽章の速い動きなどです。自分のパートが口で歌えるようになっておけば、指が動いてなくても、ついていけます。歌えないと迷子になってしまい、途中から乗れなくなります。

それから、難しいところは弾けないです。山陰フィルにも全部は弾けないメンバーが多くいます。欲張って難しいところだけを練習しないことです。それよりも4楽章の弦楽器だけでテーマが出てくるところなどをしっかりと、正確な音程で弾ける方がよほど大事です。



山岸先生(Vc)ご出演のいつこの様子

## 『山岸先生御出演のいつこのについて』 林 千夏

午前午後と、沢山の曲目を惜しみなく聴かせていただき、感謝しています。ハープトリオは初めて聴きましたが、深く優しく美しい世界でした。山岸先生ご愛用の名器『ジョセフ・ロッカ』、それはそれは深みのある極上の音色でした。『美しい音を目指す』には、まずは『美しい音にふれる』ことからだと改めて思いました。

4月よりGSEに復帰した角田くんの意気込みです。

四月より弦楽合奏団に復帰いたしました角田直人です。自分一人未成年で、まだまだ未熟者ですが大人の集団の一員として頑張っていると思いますのでよろしくお願い致します。片付けなどもお手伝いします！

萩オケの定期演奏会の練習も頑張っています！



## ♪ 編集後記 ♪

今年度からGSEだよりは2か月に1回の発行となります。突然の原稿依頼等あるかもしれませんが、何卒よろしくお願い致します。そういえばこの時期はアジが旬です。大学時代は千葉に住んでいた編者は、千葉の漁師メシ、「アジのなめろう」が大好きです。「何ぞや」と思った人は編者まで。  
(編：ぶち)